

学習ポイント 1

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

読み取り16問と書き取り16問を、文脈の中で確認する100点満点の実力テストです。出題文はすべて本教材のオリジナルで、特定の入試問題を転載したものではありません。

目標 読み取りと書き取りを時間内に解く／下線の範囲と送り仮名を確認する／誤答の原因を整理して復習につなげる

1 テストの構成と進め方

Aは基礎の読み8問、Bは標準の書き8問、Cは応用の読み8問、Dは仕上げの書き8問です。全32問を25分程度で解き、最後に下線の範囲と表記を見直します。A～C各24点、D28点、合計100点です。

例1 問1～28は各3点、問29～32は各4点。

例2 読みはすべてひらがな、書きは漢字と必要なひらがなで答える。

例3 解き終わったら、問題冊子の最後に得点と解き直した日を記入する。

2 熟語は文全体の意味で読む

読みを知らない熟語でも、前後の語や文章の内容から意味を考えられます。ただし、意味が推測できても読みを正確に覚えているかは別なので、答え合わせで両方を確認します。

例1 「故障の原因を究明する」の「究明」は「きゅうめい」。

例2 「条件を満たす」の「満たす」は「みたす」。

例3 「河川の流域」の「流域」は「りゅういき」。

学習ポイント 2

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

3 書く前に言葉を言い換える

同じ読みの漢字が思い浮かんだら、その語を短く言い換えます。意味を説明できる形で覚えると、文脈に合う表記を選びやすくなります。

例1 「会場へショウタイする」は、客として招くので「招待」。

例2 「計画のガイヨウ」は、大まかな内容なので「概要」。

例3 「意見にドウイする」は、同じ考えを示すので「同意」。

4 下線と活用形を照合する

下線部全体を答える指示なら、送り仮名も含めます。文中の形を勝手に辞書の見出しの形に戻さず、その場の語形に合わせて答えましょう。

例1 「役割をハタシタ」の下線全体なら「果たした」。

例2 「気持ちをツタエル」の下線全体なら「伝える」。

例3 「考えがフカマル」の下線全体なら「深まる」。

学習ポイント 3

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

5 字形は区別できるように丁寧に

漢字の大きさをそろえ、点画の方向や交わり方を確かめます。手書きと印刷の形には違いがあるため、印刷字の細部と少し違うだけで直ちに誤字と考える必要はありません。

例1 「己・巳・巳」は、線のつながり方や位置を確かめる。

例2 「候」と「侯」は、中央の縦画の有無を確かめる。

例3 「右」と「石」は、上部の形を確かめる。

6 得点を次の学習に生かす

合計点だけで終わらず、読み・語義・字形・送り仮名のどこでつまずいたかを見ます。知らなかった語は意味と例文を添え、翌日と数日後に答えを隠して解き直します。

例1 読みの誤りは、長音・促音・濁音のどこを誤ったか印を付ける。

例2 漢字の誤りは、正しい字と自分の字を並べ、違う部分を確認する。

例3 正解した語でも、意味を説明できなければ復習の対象にする。

使い方と参考資料

本教材の対象と採点について

A 基礎 → B 標準 → C 応用 → D 確認の順で取り組みなさい。この冊子は全32問で100点です。目安は25分。

読み・語彙は小学校～中学校の既習事項を広く復習し、書き取りには高校受験対策の語も含めます。「中3」は利用の目安であり、各語が全国共通の中3新出漢字という意味ではありません。

書く欄は1マス9mm、罫線は1行10mmです。字数指定がない場合、余ったマスは空けて構いません。字数指定のあるマス目では、句読点も1マスに1字ずつ書きなさい。

本教材では、学校での学習を想定した標準的な読み・表記を練習します。辞書にある別読・異表記をすべて許容解とするものではありません。送り仮名の許容形や記述の言い換えは、解答解説の基準に従います。手書きの字形は、同じ漢字と判断できるかを確認してください。

設問・例文は、本教材のために作成したオリジナルです。出題頻度の統計や特定地域の入試傾向を示す教材ではありません。参考資料の例文・設問は転載していません。共通する語句は、別の文脈や出題形式で繰り返し確認する総復習として配置しています。

1 文部科学省 中学校学習指導要領 平成29年告示 国語

第3学年の漢字の読み・書き、語彙指導の範囲を確認。

2 文化庁 送り仮名の付け方

送り仮名の本則・例外・許容の扱いを確認。

3 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 言葉について

表内音訓、送り仮名、語義の表記方針を確認。

資料確認日 2026年10月8日。資料名を選ぶと参照ページが開きます。